

Minitab カスタマイズツールは、設定ファイルを作成し、導入時に Minitab 16 のインストールを変更することができるグラフィカルユーザーインターフェイスです。カスタムインストールを作成するには、以下の手順を実行します。

注意: コマンドプロンプトで「`setup.exe /help`」と入力すると、いつでも「セットアップのヘルプ」にアクセスできます。

1. ネットワーク上のディレクトリにインストールファイルをコピーします。
2. コマンドプロンプトを開いて、Minitab 16 セットアップファイルに移動します。
3. 「`Setup.exe /admin`」と入力して Minitab 16 カスタマイズツールにアクセスします。
4. 導入のオプションを設定します。
5. [設定の保存]をクリックして設定ファイルをネットワーク上のディレクトリに保存します。
config.xml ファイルを Setup.exe およびその他のインストールファイルと同じ場所に保存するか、コマンドラインで「`/config "path"`」という構文を使って config.xml ファイルを指定する必要があります (例: `setup.exe /config "\\ServerName\PathTo\config.xml"`)。

注意: ステップ 1 でネットワーク上のディレクトリにインストールファイルをコピーしていない場合、[インストールファイルのコピー]にチェックマークを付けて、インストールファイルと設定ファイルの両方がネットワーク上の同じディレクトリに保存されるようにすることができます。

6. [保存]をクリックします。
7. 作成した導入方法を使用して Minitab 16 を導入します。
 - a. SMS、Altiris、Tivoli またはその他のエンタープライズ管理ツールを使用する場合は、Setup.exe を使用します。
 - b. Active Directory/Group Policy を使用する場合は、以下の重要な注意を読んでください。Active Directory/Group Policy を介して導入するには、2 つの方法があります。
 - 1) Startup スクリプトを使用する方法 (推奨)
 - Minitab 16 カスタマイズツールを使用して設定ファイルを作成します。
 - config.xml ファイルが Setup.exe と同じ場所にあることを確認してください。
 - Active Directory の Startup スクリプト内で Setup.exe を呼び出します。
 - 2) Group Policy ソフトウェア導入を使用します (割り当て専用; アップデートはサポートされていません)
 - Minitab 16 カスタマイズツールを使用して設定ファイルを作成します。
 - config.xml ファイルが Setup.exe の横にあることを確認してください。
 - Core.msi を GPO(Group Policy オブジェクト)に割り当てます。この.msi は、Core フォルダの下に作成した管理パッケージにあります (Core/Core.msi)。

注意: Group Policy を通じて Minitab をサイレントインストールした場合、ユーザーがログオンしても、インストールが完了するまでは setup.exe はバックグラウンドで実行を続けます。

組織のデフォルト設定 (Organizational Defaults) を使用してデフォルトの Minitab ユーザープロファイルを設定した場合、インストールする言語ごとに、言語パック MSI と同じ場所に orgdefs.reg ファイルを保存しておく必要があります。組織のデフォルト設定とその応用例についての詳細は、『Minitab 16 インストールガイド』を参照してください。